

# 専門分野Ⅱ

## 23単位 (600時間)

<ねらい>

- 人間が誕生し成長・発達を遂げ人生を全うする過程における特徴と健康な生活について学ぶ。
- 特に、各発達段階におけるセルフケア支援とよりよい生活について考える。
- 各発達段階において多様な健康課題を有する対象に、科学的根拠に基づき看護実践ができる基礎的能力を養う。
- 人間のもつ機能と能力を障害・喪失することで生じる様々な影響を理解し、その人がその人らしく生活することについて考える。
- 人生の終焉にあるひとと取り巻く人々へ対する看護を学ぶ。
- 対象に共感しながら寄り添う姿勢を養う。

<構成>

教育内容	科目	単位	時間数
成人看護学	成人看護学概論	1	30
	呼吸と循環の看護	1	30
	栄養と代謝の看護	1	30
	内部環境の看護	1	30
	認知と運動の看護	1	30
	周手術期の看護	1	15
	人生の終焉の看護	1/7	15/180
老年看護学	老年看護学概論	1	30
	高齢者の生活支援	1	30
	健康障害をもつ高齢者の看護	1	30
	老年看護過程	1/4	15/105
小児看護学	小児看護学概論	1	15
	成長・発達への支援	1	30
	小児臨床看護論	1	30
	健康障害のある小児の看護	1/4	30/105
母性看護学	母性看護学概論	1	30
	妊婦と産婦の看護	1	30
	褥婦と新生児の看護母性看護過程	1	30
	ウィメンズヘルス	1/4	15/105
精神看護学	精神看護学概論	1	30
	精神の健康を守る看護	1	15
	精神症状のある人への看護	1	30
	精神機能に障害のある人への社会支援	1/4	30/105
合計		23	600

# 母性看護学

## 4単位 (105時間)

### <ねらい>

現在、「母性」を取り巻く社会環境の変化は著しく、母性看護の役割はますます拡大されつつある。その対象は、妊産褥婦とその子どもを含む全てのライフサイクルにある女性のみならず、そのパートナーや家族、さらに地域社会をも含むようになった。それらをふまえて、母性看護学では主に“女性のライフサイクル”と“マタニティサイクル”におけるケアについて学ぶ。

また、生殖技術の進歩に伴って問われる生命倫理や、ドメスティックバイオレンス、幼児虐待などの社会問題についても考える機会とする。

### <目的>

母性の特性を理解し、母性の一生を通じた健康の維持、増進、疾病の予防および回復に向けた看護を実践できる基礎能力を養う。

### <目標>

1. 母性看護の概念と役割を理解する。
2. 女性のライフサイクルと各期の身体的、心理的・社会的特徴を理解する。
3. 母子保健・医療・福祉の動向と対策を学び、母性に関する諸問題について考える。
4. 生命観や生命倫理について考える。
5. マタニティサイクルにある対象の経過と健康からの逸脱状態を理解する。
6. マタニティサイクルにある対象がよりよい生活を送るための看護を理解する。
7. 母性看護学における基本技術を習得する。

### <構成>

教育内容	科目	単位	時間数
母性看護学	母性看護学概論	1	30
	妊婦と産婦の看護	1	30
	褥婦と新生児の看護	1	30
	ウイメンズヘルス	1	15
合計		4	105

授業科目名	母性看護学概論			担当教員	阿部 信子 松浦 千恵		
分野	専門分野Ⅱ	教育内容	母性看護学	総単位 時間数	1単位 30時間	年次	1年次

実務経験のある教員による授業科目	
実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
産科病棟にて妊産褥婦とその子どもを含む様々なライフサイクルにある女性への看護を経験。主にマタニティサイクルにある女性に対し、妊娠、分娩が正常からの逸脱がなく経過され、その後の育児がスムーズに開始できるように介入している。	実務経験を活かし、各ライフサイクルにある対象の理解や、母性とはなにか、生命はどのように誕生するのかなど、自己の生命観や生命倫理について考える機会となるよう、事例を交えながら講義を行っている。

授業のねらい・概要
母性看護学の概念と母性看護学の対象について理解し、母性看護の役割を考える。

授業内容および方法			
回数	授業内容	授業方法	授業までに準備しておくこと
1	母性看護の基盤となる概念(1) 母性とは/セクシュアリティ	講義	
2	母性看護の基盤となる概念(2) リプロダクティブヘルス・ライツ /ヘルスプロモーション	講義	
3	母性看護における倫理 母性看護における安全・事故予防	講義/演習	母性看護における事故予防対策
4	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状	講義	現在の母子保健と過去の母子保健
5	母子保健統計	講義/演習	母子保健統計
6	母子保健施策における看護の役割(1)	講義/演習	母性看護の対象を取り巻く環境を考える
7	母子保健施策における看護の役割(2)	講義/演習	
8	母子保健施策における看護の役割(3)	講義/演習	
9	母子保健施策における看護の役割(4)	講義/演習	
10	女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化 性周期の確立と衰退	講義	女性生殖器解剖
11	母性の発達・成熟・継承 女性のライフサイクルと家族	講義	女性のライフサイクル
12	女性の意思決定を支える技術 ヘルスプロモーションのための看護技術	講義	受胎調節方法
13	リプロダクティブヘルス(1) 家族計画指導・性感染症予防	講義/演習	
14	リプロダクティブヘルス(2) 10代の妊娠/女性とタバコ/女性と飲酒	講義/演習	
15	リプロダクティブヘルス(3) 性暴力を受けた女性/児童虐待	講義	

使用教科書・教材・参考書
系統看護学講座 母性看護学概論 医学書院 国民衛生の動向

成績評価の方法
筆記試験 100点

備考

授業科目名	ウィメンズヘルス			担当教員	阿部 信子 佐々木 悦子		
分野	専門分野Ⅱ	教育内容	母性看護学	総単位 時間数	1単位 30時間	年次	2年次

実務経験のある教員による授業科目	
実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
産婦人科病棟や外来において、妊婦、産婦、褥婦への保健指導及び思春期、更年期にある女性の保健指導を行っている。	実務経験を活かし、ライフサイクル各期にある女性の健康保持増進支援にむけた授業を展開する。

授業のねらい・概要
ライフサイクルにおけるウィメンズヘルスを理解する

授業内容および方法			
回数	授業内容	授業方法	授業までに準備しておくこと
1	女性のライフサイクル各期における看護 思春期から成熟期までの女性の变化とアセスメント	講義	
2	思春期の健康課題の明確化	演習	母子保健統計の理解
3	思春期の健康課題への対応策	演習	発表準備
4	更年期から老年期までの女性の变化とアセスメント	講義	課題ワーク
5	更年期、老年期の健康課題の明確化	演習	
6	更年期、老年期の健康課題への対応	発表	発表準備
7	成熟期女性の看護 妊娠に向けた健康づくり 妊婦の保健指導	演習	課題ワーク
8	成熟期女性の看護 妊婦の保健指導	演習	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

使用教科書・教材・参考書
系統看護学講座 母性看護学概論 医学書院 国民衛生の動向

成績評価の方法
筆記試験 100点

備考

授業科目名	妊婦と産婦の看護			担当教員	阿部 信子 松浦 千恵		
分野	専門分野Ⅱ	教育内容	母性看護学	総単位時間数	1単位 30時間	年次	2年次

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
産科病棟にて褥婦と新生児及びその家族への看護を経験。新生児の母体外生活への移行が順調に進むための支援、褥婦の正常経過を支援し、また、育児がスムーズに開始できるように介入している。	実務経験を活かし、褥婦及び新生児への、主に正常経過を支援するための看護、及び正常を逸脱した場合の看護についても展開する。

授業のねらい・概要

妊娠分娩の生理および経過と看護を理解する。正常経過のみならず、正常を逸脱した場合の看護も理解する。

授業内容および方法

回数	授業内容	授業方法	授業までに準備しておくこと
1	遺伝相談・不妊治療と看護	講義	
2	妊娠の経過のアセスメント	講義	事前課題ワークシート
3	妊婦・胎児の健康状態のアセスメント	講義	事前課題ワークシート
4	妊婦の健康診査	実技演習	母子健康手帳持参
5	妊婦の健康診査	実技演習	
6	ハイリスクにある妊婦への看護	講義	事前課題ワークシート
7	妊婦の日常生活にむけた保健指導	講義	事前課題ワークシート
8	妊婦健診の技術	実技演習	演習計画
9	母親学級活動	演習	
10	分娩準備教育	講義	事前課題ワークシート
11	分娩経過のアセスメント	講義	
12	分娩1期～2期の看護	講義	
13	分娩3期～4期の看護	講義	
14	ハイリスク状態にある産婦への看護	講義	
15	産婦A氏の分娩経過に応じた看護	演習	事例検討

使用教科書・教材・参考書

系統看護学講座 母性看護学概論 医学書院  
 系統看護学講座 母性看護学各論 医学書院  
 国民衛生の動向

成績評価の方法

筆記試験 100点

備考

授業科目名	褥婦と新生児の看護			担当教員	阿部 信子 佐々木 悦子		
分野	専門分野Ⅱ	教育内容	母性看護学	総単位 時間数	1単位 30時間	年次	2年次

実務経験のある教員による授業科目	
実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
産科病棟にて分娩介助および妊産婦とその家族への看護を経験。妊娠、分娩が正常からの逸脱がなく経過され、その後の育児がスムーズに開始できるように介入している。	実務経験を活かし、妊婦と産婦への、主に正常経過を支援するための看護、及び正常を逸脱した場合の看護についても展開する。

授業のねらい・概要
妊娠・分娩期の生理及び経過と看護を学ぶ。正常経過のみならず、正常を逸脱した状態における看護も理解する。

授業内容および方法			
回数	授業内容	授業方法	授業までに準備しておくこと
1	産褥の経過とアセスメント	講義	事前課題シート
2	褥婦の健康状態のアセスメント	講義	事前課題シート
3	母親になる過程を支える援助	講義	
4	褥婦の日常生活の援助	講義	
5	褥婦の看護技術	実技演習	演習計画シート
6	正常を逸脱した産褥経過をたどる褥婦の看護	講義	
7	新生児の生理とアセスメント	講義/演習	
8	正常を逸脱した産褥経過をたどる新生児の看護	講義	
9	褥婦への保健指導(1)	講義/演習	演習計画シート
10	褥婦への保健指導(2)	講義/演習	演習計画シート
11	褥婦の退院指導	実技演習	演習計画シート
12	新生児の看護に関する技術(1)	実技演習	新生児の特徴 観察項目等
13	新生児の看護に関する技術(2)	実技演習	
14	褥婦A氏と新生児を一对としたアセスメント	演習	事前課題シート
15	褥婦Aと新生児Aを一对とした看護	演習	事前課題シート

使用教科書・教材・参考書
系統看護学講座 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 母性看護学各論 国民衛生の動向

成績評価の方法
筆記試験 100点

備考